

## ■ 概況

11/5~11/11のNYMEX・WTI先物市場は、37.14~41.45ドルの範囲で推移した。

11月12日は、1日遅れの米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、ガソリン在庫は前週比230万バレル減、中間留分在庫は同540万バレル減と大きく取り崩しとなったものの、原油在庫は同430万バレル増と市場予想(同90万バレル減)に反する積み増しとなったことで、4日ぶりで反落した。また、国際エネルギー機関(IEA)の月報で、新型コロナのワクチン開発に進展があっても、2021年後半までエネルギー消費の拡大に資することはないとの見解を示したことも、下落要因となった。12月限終値は前日比0.33ドル安の41.12ドル。

週末13日は、前日の流れを受け、石油需要の先細り懸念が拡大し、大幅続落した。なお、ペーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は前週末比10基増の236基と8週連続の増加となった。12月限の終値は前日比0.99ドル安の40.13ドル。

週明け16日は、前週のファイザーに続き、バイオ医薬大手のモデルナが新型コロナワクチンの臨床試験における有効性を発表、経済活動の回復への期待感から、大幅反発した。また、OPECプラスが、来年1月からの200万b/dの減産緩和予定を3か月間延期する可能性があるとの報道も、上昇要因。12月限終値は前週末比1.21ドル高の41.34ドル。

17日は、引き続き、新型コロナワクチン開発の進展による世界景気回復、OPECプラスの現行減産幅770万b/d維持への期待感、また、為替市場におけるドル安・ユーロ高による原油先物の割安感から、小幅続伸した。12月限の終値は前日比0.09ドル高の41.43ドル。

18日は、前日のOPECプラスの合同閣僚監視委員会

(JMMC)で、2021年初からの減産緩和が延期される見通しになったとの観測、新型コロナワクチン開発への期待等を背景に、3日続伸した。ただ、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、ガソリンが予想を上回る増加であったことが、上値を抑えた。12月限の終値は前日比0.39ドル高の41.82ドル。

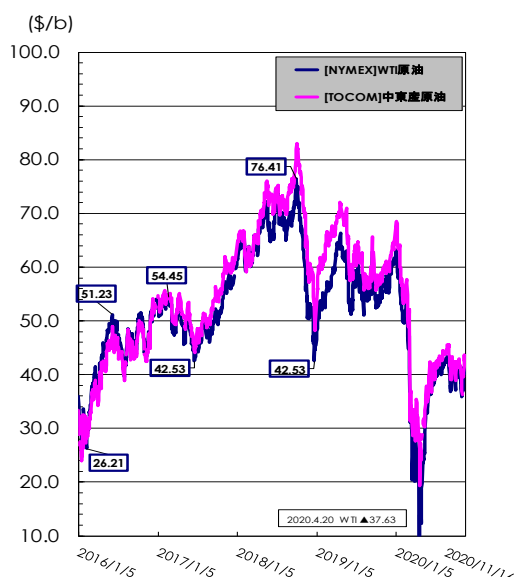
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(1月渡し)は11月5日~11月11日の間39.50~43.80ドルの範囲で推移した。11月12日43.50ドル、13日42.90ドル、16日43.20ドル、17日44.30ドル、18日43.70ドルと推移した。

為替は11月5日~11日の間103.35~105.21円の範囲で推移した。11月12日105.42円、13日104.99円、16日104.69円、17日104.48円、18日104.09円で推移した。

財務省が11月18日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月下旬の原油輸入平均CIF価格は、29,116円/klで、前旬比152円安、ドル建て43.86ドルで前旬比0.19ドル安、為替レートは1ドル/105.53円。また、同日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月の原油輸入平均CIF価格は、29,537円/klで、前月比1,251円安、ドル建て44.51ドルで前月比1.69ドル安、為替レートは1ドル/105.51円。

そのような中で、11月16日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.4円の値下がり、軽油は同0.4円の値下がり、灯油は4円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンは9週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がりとなり、灯油は6週連続の値下がりだった。この週(11月第3週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社前週比2.5円の引き上げとなった。

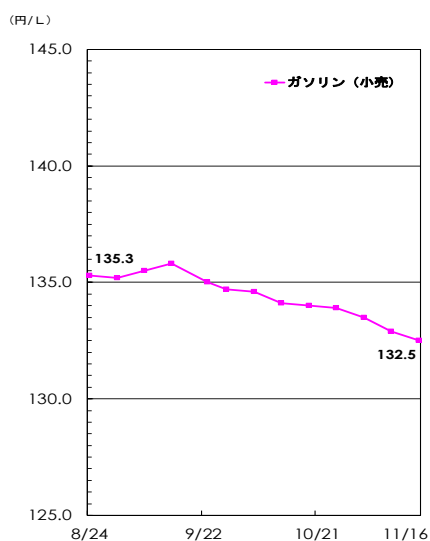
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/8 ~ 11/14	2,757 ▲124	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	71.7 ▲3.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/14	11,997 ▼-418	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/16	42.80 ▲2.40	▼ -18.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/16	41.34 ▲1.05	▼ -15.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月下旬	43.86 ▼-0.19	▼ -21.23
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	29,116 ▼-152	▼ -15,018
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.53 ▲0.09	▲ 2.27
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/16	105.69 ▼-1.34	▲ 4.13



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/8 ~ 11/14	836 ▼ -11	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	790 ▼ -2	▼ -	
	輸出	"	64 ▲ 35	▼ -	
	在庫	11/14	1,918 ▼ -18	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/10 ~ 11/16	41.9 ▲ 1.1	▼ -17.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/10 ~ 11/16	39.7 ▲ 1.9	▼ -15.8
		(TOCOM/中部)	11/16	42.2 ▲ 1.5	▼ -15.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/16	132.5 ▼ -0.4	▼ -14.4	

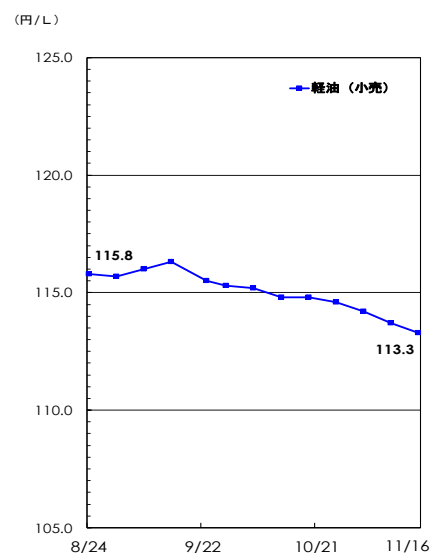
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

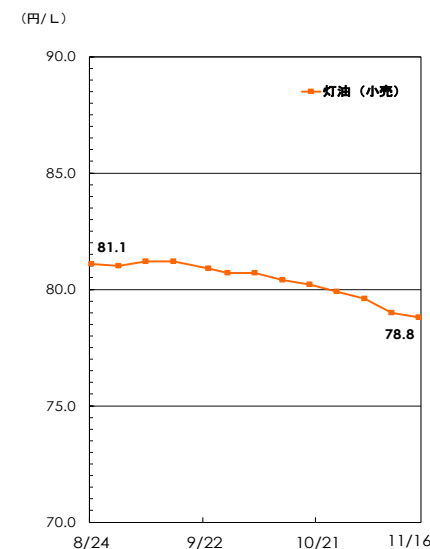
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/8 ~ 11/14	584 ▼ -4	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	589 ▼ -7	▼ -	
	輸出	"	5 ▲ 5	▼ -	
	在庫	11/14	1,598 ▼ -10	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/10 ~ 11/16	43.8 ▲ 0.8	▼ -17.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/10 ~ 11/16	47.3 ▲ 1.1	▼ -16.2
		(TOCOM/中部)	11/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/16	113.3 ▼ -0.4	▼ -14.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/8 ~ 11/14	272 ▼ -13	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	394 ▲ 147	▲ -	
	輸出	"	25 → 0	▼ -	
	在庫	11/14	2,765 ▼ -146	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/10 ~ 11/16	43.7 ▲ 0.9	▼ -17.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/10 ~ 11/16	42.5 ▲ 1.6	▼ -17.2
		(TOCOM/中部)	11/16	44.5 ▲ 1.8	▼ -17.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/16	78.8 ▼ -0.2	▼ -12.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月18日のNYMEXのWTI先物原油は、17日に開催されたOPECプラスの合同閣僚監視委員会(JMMC)で、2021年初からの減産緩和が3か月ないし半年間延期される公算が強くなったとの観測、また、最近の新型コロナワクチン開発進展への期待等を背景に、3日続伸した。ただ、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油は前週比80万バレル増と市場予測(同170万バレル増)を下回ったものの、ガソリンが同260万バレル増と予想(同10万バレル増)を大きく上回る増加であったことが、上値を抑えた。12月限の終値は前日比0.39ドル高の41.82ドル、1月限の終値は同0.36ドル高の42.01ドル。

EIAによると、11月16日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.5セント値上がりの1ガロン2.111ドル(58.9円/ℓ)、ディーゼルは同5.8セント値上がりの2.441ドル(68.1円/ℓ)となった。ガソリンは6週ぶりの値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年11月8日～11月14日に休止したトッパー能力は38.3万バレル/日で、前週に対して8.9万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は275.7万klと、前週に比べ12.4万kl増加。前年に対しては59.2万klの減少。トッパー稼働率は71.7%と前週に対して3.3ポイントの増加、前年に対しては13.8ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.3%減、ジェット/22.9%増、灯油/4.7%減、軽油/0.6%減、A重油/1.8%増、C重油/9.4%減。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で灯油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では灯油、A重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は79.0万kl(対前週0.3%減)と2週振りで減少した。ジェット5.4万kl(対前週15.9%減)、灯油39.4万kl(対前週59.6%増)、軽油58.9万kl(対前週1.2%減)、A重油19.0万kl(対前週14.2%減)、C重油16.4万kl(対前週6.0%増)。

(単位:千KL)

	今週 (11/8 ~ 11/14)	前週 (11/1 ~ 11/7)	前週比	
ガソリン	790	792	▼ -2	(-0%)
ジェット燃料	54	64	▼ -10	(-16%)
灯油	394	247	▲ 147	(60%)
軽油	589	596	▼ -7	(-1%)
A重油	190	221	▼ -31	(-14%)
C重油	164	155	▲ 9	(6%)
合計	2,181	2,075	▲ 106	(5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月14日時点の在庫は、ジェット、A重油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは191.8万kl、前週差1.8万kl減。前年に対しては36.3万kl多い。

灯油は276.5万kl、前週差14.6万kl減。前年に対しては3.8万kl少ない。

軽油は159.8万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては8.1万kl多い。

A重油は78.6万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては3.9万kl多い。

C重油は185.4万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては15.7万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (11/14)	前週 (11/7)	前週比	
ガソリン	1,918	1,936	▼ -18	(-1%)
ジェット燃料	884	859	▲ 25	(3%)
灯油	2,765	2,911	▼ -146	(-5%)
軽油	1,598	1,608	▼ -10	(-1%)
A重油	786	773	▲ 13	(2%)
C重油	1,854	1,849	▲ 5	(0%)
合計	9,805	9,936	▼ -131	(-1.3%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月10日～11月16日の指標原油価格は前週比で大きく値上がりし、為替レートは円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社2.5円の引き上げとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月10日～16日の製品スポット市況は、11月3日～9日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近(11/10～11/16)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(11/3～11/9)比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.8円の値上がりだった。直近(11/10～11/16)において、ガソリンは94～96円台で値上がり、灯油は42～44円台で値上がり、軽油は42～44円台で値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(11/10～11/16)に、前週比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(11/10～11/16)に、ガソリンは95～97円台で値上がり、灯油は41円台で値下がり、軽油は44～45円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.9円の値上がり、灯油は1.6円の値上がり、軽油も1.1円の値上がりだった。先物価格は、同期間(11/10～11/16)に、ガソリン92～93円台で値上がり、灯油41～43円台で大きく値上がり後値下がり、軽油47～48円台で値上がり後値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

(陸上ローリー 4地区平均)	今週 (11/10～11/16)	前週 (11/3～11/9)	前週比
レギュラー	41.9	40.8	▲ 1.1
灯油	43.7	42.8	▲ 0.9
軽油	43.8	43.0	▲ 0.8

(TOCOM) (単位: 円/%)

(期近物/終値) 〔平均〕	今週 (11/10～11/16)	前週 (11/3～11/9)	前週比
レギュラー	39.7	37.8	▲ 1.9
灯油	42.5	40.9	▲ 1.6
軽油	47.3	46.2	▲ 1.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/10～11/16実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.1	▲ 1.9	▲ 1.5
灯油	▲ 0.9	▲ 1.6	▲ 1.2
軽油	▲ 0.8	▲ 1.1	▲ 1.0
A重油	▲ 0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

11月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円安の132.5円、軽油は同0.4円安の113.3円、灯油は18%ベースで同4円安の1,418円(1%ベースでは78.8円で同0.2円安)。ガソリンは9週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がり、灯油は6週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは3県、横ばいは6県、値下がりが38都道府県となった。全国最安値は125.1円の宮城県(前週比0.7円安)、その次に安かったのは126.3円の滋賀県(前週比0.2円安)、最高値は143.0円の大分県(同0.1円安)だった。最も値上がりしたのは、同1.5円高の愛知県(131.7円)、横ばいは山形県等6県、最も値下がり

したのは、同1.5円安の東京都(132.4円)と高知県(138.0円)だった。

今週(11月10日～11月16日)は、指標原油価格は大きく値上がりし、為替レートは円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。次週(11月19日～11月25日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.5円の引き上げとなった。次回調査時(11月24日)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) 〔週動向〕	今週 (11/16)	前週 (11/9)	前週比	直近高値
レギュラー	132.5	132.9	▼ -0.4	08/8/4 185.1
灯油	78.8	79.0	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	113.3	113.7	▼ -0.4	08/8/4 167.4

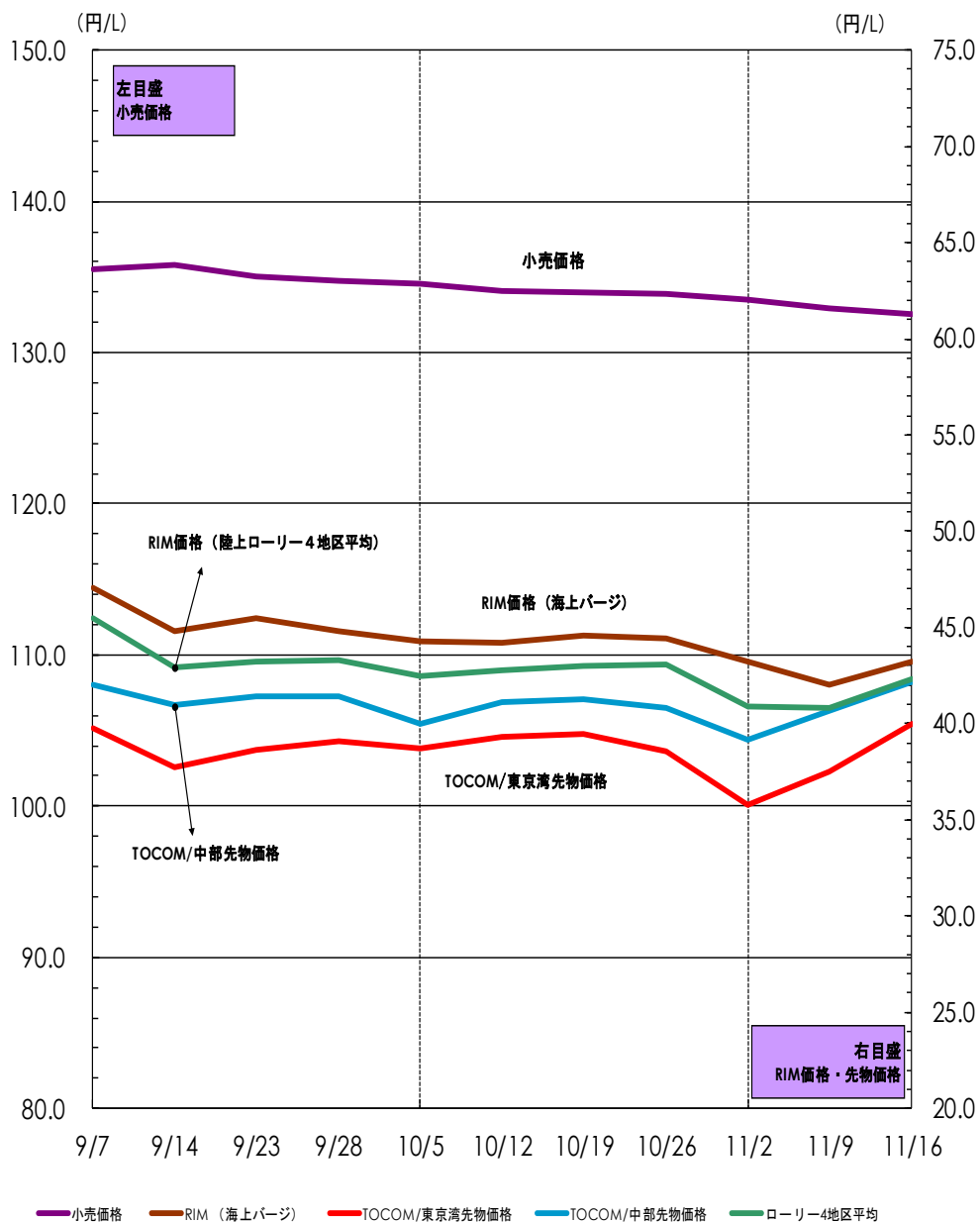
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/9/7 ~ 2020/11/16)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2020第21号)の公表は、11/27(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。